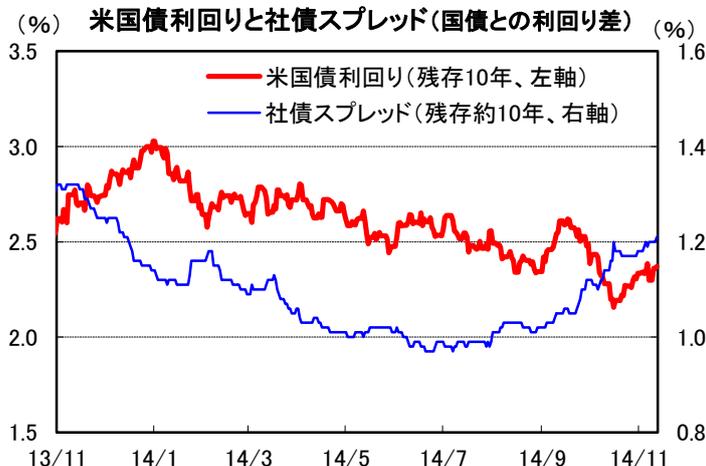


今日のトピック 米国の債券市場の最近の動向(2014年11月) QE終了や日銀金融緩和拡大から米金利上昇

ポイント1 米国債利回りは上昇

QE終了や日銀金融緩和拡大が要因

■10月中旬以降の米国10年国債利回りは、2.14%程度を直近の底として、足元では2.35%程度まで上昇しました。10月末にかけて、FRBのQE終了と日銀による量的・質的金融緩和の拡大が発表され、日米の金融政策の方向性の違いがより明確となりました。また、米国の7-9月期の実質GDP成長率が市場予想を上回り、米国経済の底堅い成長が確認されました。こうしたことから米ドル高・円安が急速に進み、世界的に株価が上昇したことを背景に、米国債利回りは上昇しました。

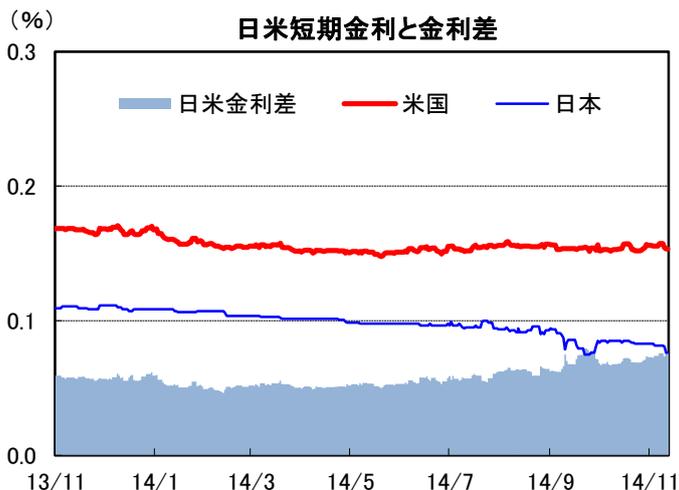


(注1)データは2013年11月1日～2014年11月12日。
(注2)社債スプレッドはパークレイズ・米国投資適格社債インデックス。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 社債利回りも上昇し、社債スプレッドは拡大

日米短期金利差も若干拡大

■米国債利回りが上昇するなか、社債利回りも上昇し、社債スプレッド(国債との利回り差)は、若干拡大しました。
■短期金利の動きをロンドン銀行間取引金利(LIBOR)で見ると、米国ではQE終了後も当面低金利政策が据え置かれる見込みからほぼ横ばいであったのに対し、日本では日銀の金融緩和策拡大により金利が低下し、日米金利差は若干拡大しました。



(注1)データは2013年11月1日～2014年11月12日。
(注2)日米短期金利はロンドン銀行間取引金利(LIBOR)1カ月物。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 債券利回りは低金利政策維持により低位で推移後、緩やかな上昇へ

■ISM景況感指数が依然高水準であることや雇用者数も20万人超の増加が続いていることなどから、米国経済は来年にかけて年率+3%前後の堅調な成長が続くと見込まれます。
■債券市場では、FRBがQE終了後も相当期間低金利政策を維持すると表明しており、国債利回りは

は当面低位で推移すると思われます。ただし米国経済は今後も堅調に推移すると見られ、債券利回りには緩やかな上昇圧力がかかりそうです。
■社債スプレッドは、主要な米国企業の底堅い業績や慎重な財務運営、社債への旺盛な需要などから、今後も安定的に推移すると見込まれます。

ここもチェック! 2014年11月10日【デیلیー No.1,988】米国の雇用統計(2014年10月)
2014年10月30日【デیلیー No.1,980】米国の金融政策(2014年10月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。